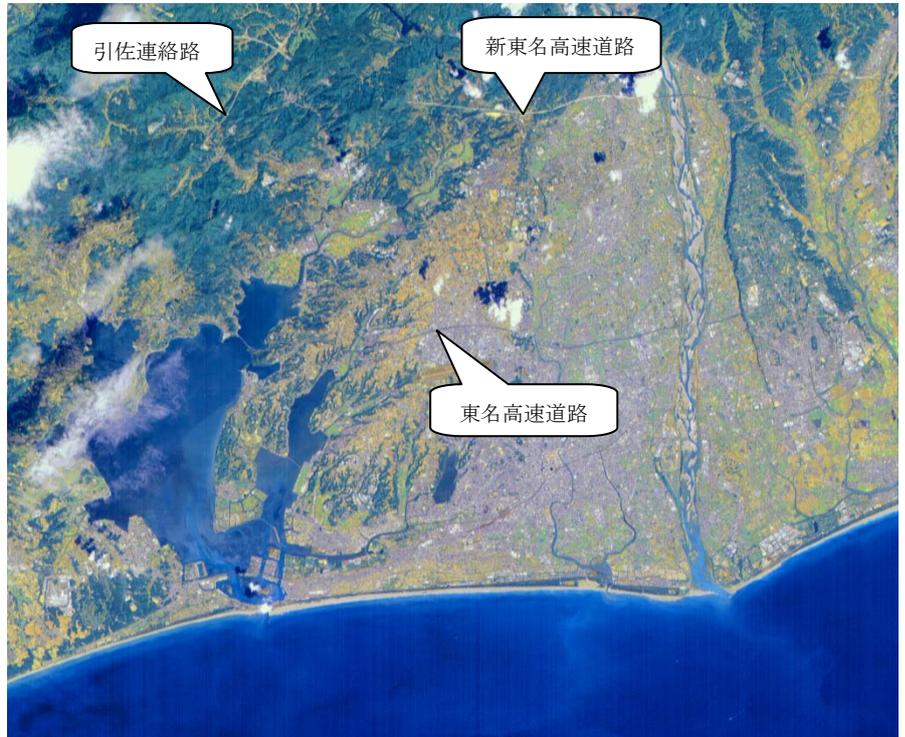


国土の姿を見る

—新東名高速道路その2—

この画像も、表表紙裏の画像と同じく、我が国の地球観測衛星「だいち」から撮影した画像（撮影日は2010年9月14日）である。浜名湖、浜松市周辺を切り出したもので、撮影時点では新東名高速道路は開業前であった。この画像には、東名高速道路、新東名高速道路、引佐連絡路が写っている。

2012年4月14日の開業後1カ月、3か月、6か月の二重化された区間の交通量報告がNEXCO中日本から出されているが、ゴールデンウィークを含む最初の1カ月では、10km以上の渋滞の発生が東名で前年の65回から1回、新東名で4回と約9割減少し7月14日までの3カ月でも前年の東名で71回から今年は東名で1回、新東名で4回と減少、旧盆の帰省時期を含む10月14日までの6カ月では、前年の東名で148回から、東名1回、新東名10回と大幅に減少し、渋滞緩和に大きな効果があったことが報告されている。また、ダブルネットワークになった効果として、4月23日に発生した大型車による事故で、東名高速道路の本線が6時間にわたり通行止めになった際、国道1号の交通量が1.2倍、新東名高速道路の交通量が1.4倍になることで影響を吸収でき、渋滞が発生しなかったことが報告されている。



衛星データ ©JAXA Distribution PASCO

「だいち」から見た、浜松市周辺の画像

市街地に近い東名高速道路に対して、「そう遠くない山側を通るバイパス」としての新東名高速道路のありようを、宇宙からの画像が良くとらえている。